

ジョイント栽培の普及に向けた国の果樹対策との連携

果樹産地の課題

安定的な生産・供給体制の確立が必要

- 不安定な果実の価格が経営を圧迫する中、高値で取引できる**優良品目・品種への転換の加速化**が必要。

- 落葉果樹の改植（植替え）実績は、かんきつ・りんごより低く、転換に遅れ。

実施面積 (割合)		実施面積 (割合)	
みかん	1,800 ha (38 %)	かき	90 ha (2 %)
りんご	1,400 ha (30 %)	くり	90 ha (2 %)
その他かんきつ	800 ha (17 %)	なし	50 ha (1 %)
ぶどう	130 ha (3 %)	その他	340 ha (7 %)

※ 割合は全事業実施面積（4,700ha）に対する品目別実施面積の割合。

国の果樹対策の推進方向

技術導入を加味した「産地計画」の策定産地に対し、以下の施策により集中的に支援

◆ 果樹経営支援対策事業

（平成27年度予算 5,520百万円の内数）

《27年度からの運用の見直し事項（抜粋）》

- りんご以外の主要落葉果樹等（ぶどう、**なし**、もも、かき、くり等）の改植支援についても、定額で支援。

支援単価

- ・ 22万円/10a（みかん等のかんきつ類）
- ・ 16万円/10a（りんご等の主要落葉果樹等）
- ・ **32万円/10a**（りんごわい化栽培、**なしジョイント栽培**等）
- ・ 1／2以内（その他果樹）

栽植密度が高く、苗木代がかさむことなどから、**高額**の支援単価を設定。

→ 改植の加速的実施に加え、なしジョイント栽培といった新技術の普及にも貢献。

⇒ 果樹産地の競争力強化・園地や担い手の確保

平成21～25年：適用樹種拡大研究への発展

対象樹種	担当機関	主要な目的
リンゴ	宮城県	低樹高・省力
	長野県	ナシ遊休棚の活用
	神奈川県	中山間地振興
カキ	福岡県	太秋の生産安定
ブドウ	茨城県	樹勢・品質安定
ウメ	神奈川県	低樹高・省力
モモ	広島県	簡易化・品質安定
スモモ	群馬県	早期成園・省力
キウイ	神奈川県	省力・簡易化
イチジク	愛知県	株枯病対策
ナシ	鳥取県	新品種の早期普及
	埼玉県	強樹勢品種への適用
	長野県	南水の生産安定
	神奈川県	弱樹勢品種への適用



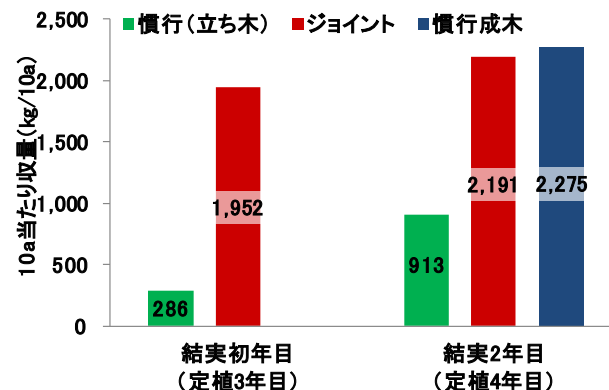
代表的な研究成果

カキ(福岡県)

- ・早期成園
- ・省力軽労化
- ・せん定簡易化



定植3年目のカキジョイント樹



ジョイント樹の収量推移

スモモ(群馬県)

- ・早期成園、多収
- ・受粉、せん定省力化

定植**3年目**で初結実。ジョイント樹の結実2年目(定植**4年目**)の10a当たり換算収量は同樹齡慣行樹の**2.4倍**、慣行成木樹の**96%**
→定植**4年目**でほぼ成園並みの収量確保！

ウメ(神奈川県)

- ・早期成園
- ・省力軽労化
- ・農薬コスト削減

リンゴ(宮城県)

- ・省力軽労化
- ・管理作業簡易化



愛媛県中山間地:カキ



朝日新聞(2015.6.11)